



ほんなこてゆたたり



文責 校長 平井 敏博

【令和5年度学校教育目標】

大人も子どもも、目指すは“とことん学び続け、とことん学び合う人”
～生涯学びの基礎づくり～

大丈夫です。

～一人で抱え込まないように～

年度が替わり、生活もいろいろ変わっています。例えば、新入生は、幼稚園や保育園から生活の場が小学校に変わり、人生の大きな転機です（子ども達にとっては、大きな、大きな変化です。）

大人目から観れば、まるで何もなかったように、順応しているように見える子ども達もたくさんいます。しかしながら、子ども達は、子ども達なりに、いろいろな内面の葛藤があったり、瞬時の成長があったりしていると思われま。大人からは、“当たり前”に見えてしまうことかもしれませんが、実は、すごいことではないでしょうか。（もちろん、わたしたちも、そのような経験をして今があるのですが。）元気に学校に行っていることは、称賛に値することですし、しっかりと自信につなげたいことです。他の学年でも、同様です。毎日、お仕事、家事をがんばっておられる保護者の皆様も、全く同様だと思います。

一方、生活の変化に戸惑う人もいます。登校を渋ったり、意欲が出なかったり等、様々な反応があります。こちらこそ“当たり前”だと思われま。人生の大きな転機なのですから、大人でも子どもでも同じです。共感しながら、焦らず、伴走しましょう。

伴走者も、迷ったり、悩んだり、焦ったりします。伴走者は、自分一人だと思わないで下さい。“かたち”は違っても、誰もが、なんらかの問題・課題にぶつかって、それぞれ、迷ったり悩んだりしながらやっております。頼ったり、頼られたりしながら、ぼちぼちやってみましょう。そうこうしているうちに、子ども達の“成長”“伸び”“変容”に、ハッと驚き、元気づけられることがやってきます。

ある登校班の観察記

～登校班一つでも、様々な学びの宝庫です。～

ある登校班に同行しました。集合場所で、みんなが集まるのを待っています。遅れたり、休んだりする時は、メンバーへの連絡が必要です。それがないと、いつまでも待たせることになります。これも大事な学びのチャンスです。社会に出ても、同様な場面がたくさんありますから、いい機会ですよ。連絡、大事です。



メンバーに新1年生が3人加わりました。学校までの距離は、近距離ではありません。1年生にとっては、登校するだけでも、かなりの“体力づくり”です。班長は、1年生のペースに合わせて歩かなければなりません。副班長は、遅れ気味になれば後ろから声をかけます。優しい声かけが必要です。



信号のある交差点の横断が1回、信号のない横断歩道を横断するのが2回あります。信号のある交差点では、青信号であっても左折車、右折車があるので注意が必要です。信号のない横断歩道では、左右の確認が不可欠です。手を挙げて、車への横断の意思表示も、とても大事なことです。



歩道の横が、そのまま畑や水田であったり、水路であったりするところもあります。ガードパイプやガードレールが設置されているところが増えていますが、それでも、完全ではありません。歩行者自身の安全意識も、必ず必要です。(大人の側の気付きも大事です。)